

指導資料



鹿児島県総合教育センター

生徒指導 第60号

— 小・中・高等学校対象 —

平成23年10月発行

「学級の荒れ」を防ぐための学級集団づくり

児童生徒が授業中の私語により、ざわついたり、学級のグループ内での人間関係がこじれたりしているために、教師の指示が通らず学級運営が思うようにいかないことがある。このように、学習活動やその他の教育活動を進めることが困難な学級の状況を、深谷¹⁾(1994)は「学級の荒れ」と呼んでいる。

本稿では、このような「学級の荒れ」を防ぐための望ましい学級集団づくりについて述べる。

1 「学級の荒れ」の客観的理解

「学級の荒れ」を防ぐためには、日ごろから分かる授業の実践や、教師と児童生徒、児童生徒同士の望ましい人間関係づくりが大切である。

学校、児童生徒、保護者を取り巻く環境が大きく変わってきた現在、学級経営が円滑に進まなくなる状況も見られる。児童生徒が心を開いて安心して語り合い、信頼し合えるような望ましい人間関係づくりへのより積極的な教師の働き掛けが求められている。

(1) 「学級の荒れ」の段階

「学級の荒れ」は、突然出てくるわけではない。担任や周囲の教師が「なんと

なくうまくいかない。」と感じ始めたときには、すでに児童生徒の中でも人間関係に障害が起き始めている場合も多い。

深谷は「学級の荒れ」を次の三つの段階に分け、このような状態に陥らないための学級集団づくりの必要性を述べている。

<第1段階> (学級のざわつき)

- ・ 登校しぶりが出てくる。
- ・ 学級内がざわつく。
- ・ 悪ふざけが多くなる。
- ・ 学級や授業が何となくうまくいかない感じがある。
- ・ 授業中の私語が多くなる。
- ・ 授業中に眠る児童生徒が多くなる。
- ・ 係活動をやり遂げない児童生徒が多くなる。
- ・ 提出物がそろわなくなる。

<第2段階> (学級の乱れ)

- ・ 不登校傾向の児童生徒が出てくる。
- ・ 注意してもすぐに騒がしくなる。
- ・ 児童生徒と担任の心が離れてしまった感じがある。
- ・ 質問しても返事をしなくなる。
- ・ 提出物を出さない児童生徒が多くなる。
- ・ 係活動や清掃活動が、十分にできない。
- ・ 教室内が散らかっている。
- ・ いじめが起きる。

<第3段階> (学級の崩壊)

- ・ 不登校児童生徒が複数出る。
- ・ 教師の注意を聞き入れない。
- ・ 集団で教師に反抗する。
- ・ 授業が成立せず、授業中でも勝手に教室を出入りする。
- ・ 公共物が破損される。
- ・ 暴力行為が起きる。
- ・ いじめが頻繁に起きる。

(2) 学級が荒れていく時の態様

教師は、日ごろから児童生徒をよく観察し、理解に努め、わずかな変化にも気付くことが大切である。

次の表は、学級が荒れていく時、児童生徒や学級に現れる態様を学校生活の時系列で記したものである。

	児童生徒、学級の状態
朝	☐ 遅刻が増える。 ☐ 表情が暗い。
休み時間	☐ 外に出なくなる。 ☐ 教室以外の場所に集まる。 ☐ 一人ぼっちの児童生徒がいる。 ☐ 教室内の掲示物が破られる。 ☐ 落書きがある。 ☐ 物がなくなる。 ☐ お菓子の包み紙が落ちている。
授業時間	☐ 授業の開始時刻に着席しない。 ☐ 忘れ物が多くなる。 ☐ 私語が増える。 ☐ 勝手な発言が目立つ。 ☐ 発表しなくなる。 ☐ 学用品の落とし物が増える。 ☐ 提出物が出されない。 ☐ 言葉遣いが荒くなる。 ☐ トイレや保健室に行きたいと申し出る児童生徒が増える。
給食時間 小・中・高	☐ 給食着をしっかりと身に着けない。 ☐ 教室内が騒がしい。 ☐ 食べ残しが増える。 ☐ 片付け方が乱雑になる。 ☐ 余ったデザートをいつも決まった児童生徒が食べている。 ☐ ゴミが散らかる。 ☐ 食器や食缶の返却がされていない。 ☐ 座席を勝手に移動している。
昼食時間 高	☐ 一人で食事をしている生徒がいる。 ☐ 教室内が騒がしい。 ☐ ゴミが散らかる。 ☐ 机・椅子が乱れた中で食事をしている。
清掃時間	☐ 道具が掃除用具入れに乱雑に入っている。 ☐ 清掃後、道具が散らばっている。 ☐ 私語が増える。 ☐ 清掃場所へ行かない児童生徒が増える。 ☐ 清掃がいかげんになる。
放課後	☐ 当番活動をしない。 ☐ 机、椅子が乱れている。 ☐ ゴミが落ちている。 ☐ 授業で書かれた黒板が、そのままになっている。 ☐ 配布したプリントや雑巾が散乱している。 ☐ ロッカー内が乱雑になる。 ☐ 週末になっても給食着、学習用具等を持ち帰らなくなる。

このような、児童生徒、学級の変化を

感じたら、今までの自分自身の言動・考え方に改善の必要はないのか振り返るとともに、児童生徒と力を合わせて居心地のよい学級づくりに取り組むことが大切である。

2 望ましい学級集団づくりへの具体的な取組例

望ましい学級集団をつくるためには、次の3点に配慮することが大切である。

- ① 児童生徒との信頼関係を築く教師のかかわり方
- ② 人間関係づくりの促進
- ③ 規範意識の醸成

(1) 児童生徒との信頼関係を築く教師のかかわり方

望ましい学級集団づくりのためには、教師の指示が児童生徒に的確に伝わらなければならない。そのためには、教師は常に温かさ（プラスの言葉掛け、受容）と厳しさ（非は非として指導、正対）をもち、児童生徒との良好な関係を築き、児童生徒をリードしていくことが大切になる。

そして、教師は「こんな学級をつくりたい。」という目標をはっきりと児童生徒に示すことが重要である。目標を共有することで学級集団に一体感が生まれ、「この先生について行きたい。」という児童生徒の教師への信頼感もはぐくまれてくる。

また、日ごろから教師は、児童生徒に教育相談の技法を生かしてかかわることが大切になる。

次に、教師のかかわり方のチェックが

イントを示す。

- ☐ 教師として適切な言葉遣いや行動をしているか。
- ☐ 一人一人のよいところを積極的にほめているか。
- ☐ 一人一人の個性に応じた声の掛け方やしかり方などを心掛けているか。
- ☐ 一人一人に公平に接するように心掛けているか。
- ☐ 自分の考えや気持ちを上手に伝えるように心掛けているか。
- ☐ 児童生徒の無理な要求に対して、冷静に対応しようと心掛けているか。
- ☐ 間違った行動のとき、頭ごなしに注意しないで、児童生徒が納得できるように話をしているか。



(2) 人間関係づくりの促進

学級が荒れることの原因や背景は様々であるが、その原因の一つに「人間関係の希薄化」（心の触れ合いが乏しいこと）が挙げられている。学級では、「自分の言いたいことをきちんと主張し、相手の話をきちんと聞く力」（コミュニケー

ション能力）を身に付けさせることが大切である。

次に示すのは、学級における人間関係づくりやコミュニケーション能力を育成するための取組を意図的・計画的に配置した年間指導計画の例である。

人間関係づくりに配慮した年間指導計画の例（小学校・中学校）

月	児童生徒の状況と指導のねらい	人間関係づくりのエクササイズ
4	この時期は児童生徒にとって最も期待と緊張が入り交じる時期である。 「この学級なら頑張れるかもしれない。」という思いをつかませる。	【目的】 集団参加への不安軽減と意欲の喚起 【エクササイズ】 自己紹介ゲーム、団結くずし、なんでもバスケット、探偵ごっこ
5	大型連休が終わった後、元気のない児童生徒が出始める時期である。 教育相談週間を設け、児童生徒の学校適応状況を確認する。	【目的】 友だち関係形成のきっかけづくり 【エクササイズ】 他己紹介ゲーム、いいとこさがし、サイコロトーク（自分のこと）
6・7	学校生活に慣れ、友人関係も安定する時期である。 積極的な「人間関係のつくり方」を学ばせる。	【目的】 居場所とする小集団づくり、自己・他者受容 【エクササイズ】 グループづくりゲーム、トラストウォーク、サイコロトーク（自分・学級生活のこと）
9	長い休みの後、気持ちや身体を1学期の状態に戻すことが必要な時期である。 2学期が順調にスタートできたか、児童生徒の様子を注意深く確認する。	【目的】 自己・他者受容 【エクササイズ】 友達発見、うれしい話の聞き方、なりきりインタビュー、2人で問題作り
10・11・12	学級がまとまるきっかけとなる大きな行事が行われる時期である。 行事の成功ばかりに意識が向かうと、お互いを非難する空気も生まれるので、児童生徒の様子をしっかりと見届ける。	【目的】 小集団から中集団への仲間づくり 【エクササイズ】 グループ大なわとび、心のキャッチボール、クラス全体大なわとび、えんぴつ対談
1・2	3学期に入り、学級内の友人関係は固まり、グループも完成している時期である。 仲間同士の自己開示を深めさせる。	【目的】 学級集団全体での活動体験の積み重ね 【エクササイズ】 パス・ビーンズ・ゲーム、心さがし、しぐさで伝えよう、ミラクルマッチ、私の話を聞いてよ
3	1年間の学級の総まとめの時期である。 学級への所属感や自己有用感をもたせ仲間への感謝の気持ちをもたせる。	【目的】 自己・他者・学級集団理解 【エクササイズ】 いいとこさがし（友達・クラス）、別れの花束

（エクササイズは、國分康孝監修『エンカウンターで学級が変わる 小学校編・中学校編』より抜粋）

(3) 規範意識の醸成

望ましい学級集団をつくるためには、児童生徒に学級集団をよりよくしていこうとする意欲を育てることが必要となる。その際、児童生徒が自らの行動を振り返り、自らの態度や行動を見直すよう指導

することが大切になる。

ここでは、学級生活の向上を目指した話し合い活動を行うことで規範意識の醸成を図っていく指導事例として中学校第1学年学級活動の指導略案を示す。

【単元名】「学級を見つめよう。」（指導要領との関連 (1) 学級や学校の生活づくり イ）

進	学 習 活 動 の 流 れ	指 導 上 の 留 意 点
導 入	1 ウォーミングアップをする。 2 本時の目標を知る。 これまでの学級生活を見つめ、みんなが過ごしやすい学級づくりを目指そう。	・ アイスブレイキングを取り入れ、なごやかな雰囲気づくりに配慮する。 ・ これまでの係活動の反省を基に、 学級生活の向上 を目的に学級会活動を行うことを説明し理解させる。
展 開	3 今後の学級生活の充実に向けて「見直したほうがよいと思われる学級内の困りごと」についてワークシートに記入する。 4 グループごとに記入した内容を共有し、改善するためにはどうしたらよいかを話し合う。 5 友達の活動で、 学級生活の改善のために紹介した行動を出し合う。 6 みんなが過ごしやすい学級とは、どんな学級かを話し合い、共通実践事項を決定する。	・ 学級生活で困っている点について意見を書かせる。（例：放課後、教室が散らかっているなど、 規範意識が足りない点について記入させるが、個人批判にならないように気を付けさせる。 ） ・ 自分の学級での生活態度について振り返らせ、 改善するためにはどうしたらよいか十分に話し合わせる。 ・ 友達のよい点をたくさん出させ、学級での有用感や所属感を味わわせる。 ・ 自分の行動が友達にどのように評価されているのかを確認させる。 ・ 話し合い活動に進んで取り組んでいるか、確認する。必要に応じて助言をする。 ・ 学級集団として向上につながるような具体的な意見を引き出させる。 ・ 実践につながるような積極的な意見を引き出させる。
終 末	7 話し合い活動や教師のまとめの話により、 居心地のいい学級であるためには、ある程度のルールが必要であることを知る。 8 自己評価・相互評価をする。	・ お互いが気持ちよく生活するためには、最低限のルールを守る必要があることを自覚させる。 ・ 話し合いの結果を踏まえて、協力して学級のルールを守る意欲を喚起させ、学級の自治活動に自信をもって当たることができるように教師がまとめの話をする。 ・ 本時の話し合い活動の自己評価と相互評価をさせる。

（ゴシック体の部分は、規範意識の醸成を狙った部分）

私たち教師は、児童生徒が確かな「居場所」を実感できる学級集団づくりを目指し、日々、一人一人の心に響くかわりを続けている。誰もが「自分が学級の役に立っている」「自分が好き」「自分を認めてくれる学級の仲間が好き」と思うことができる学級集団は、「荒れ」に巻き込まれることはない。一人一人が輝ける学級集団づくりをするこ

とで人の痛みのわかる心豊かな児童生徒を育てていきたいものである。

ー引用・参考文献ー

- 諸富祥彦著『クラスの荒れを防ぐカウンセリング』 2004、ぎょうせい
- 國分康孝監修『エンカウンターで学級が変わる小学校編・中学校編』 2004、図書文化
- 1) 深谷昌志監修「調査レポート『学級の荒れ』をどうとらえるか」 1994、ベネッセ教育研究所（教育相談課）